

椎葉村

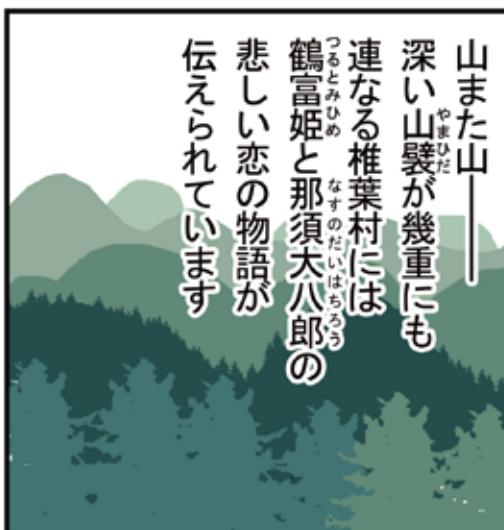
平家伝説

ひむかの中でも
椎葉村は
山の深さが際立つ
ところです

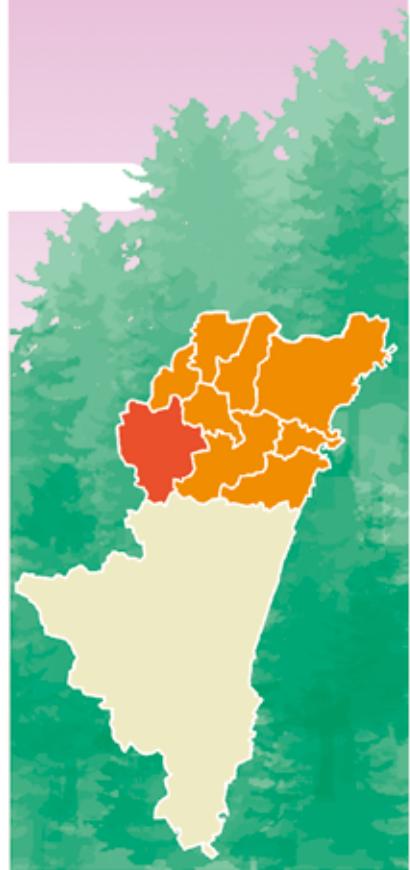


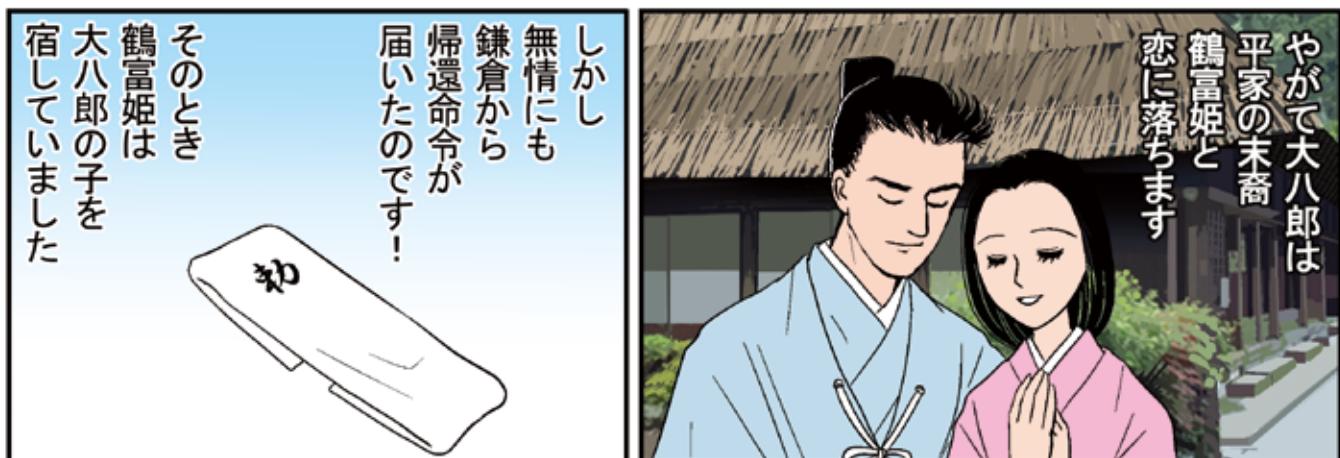
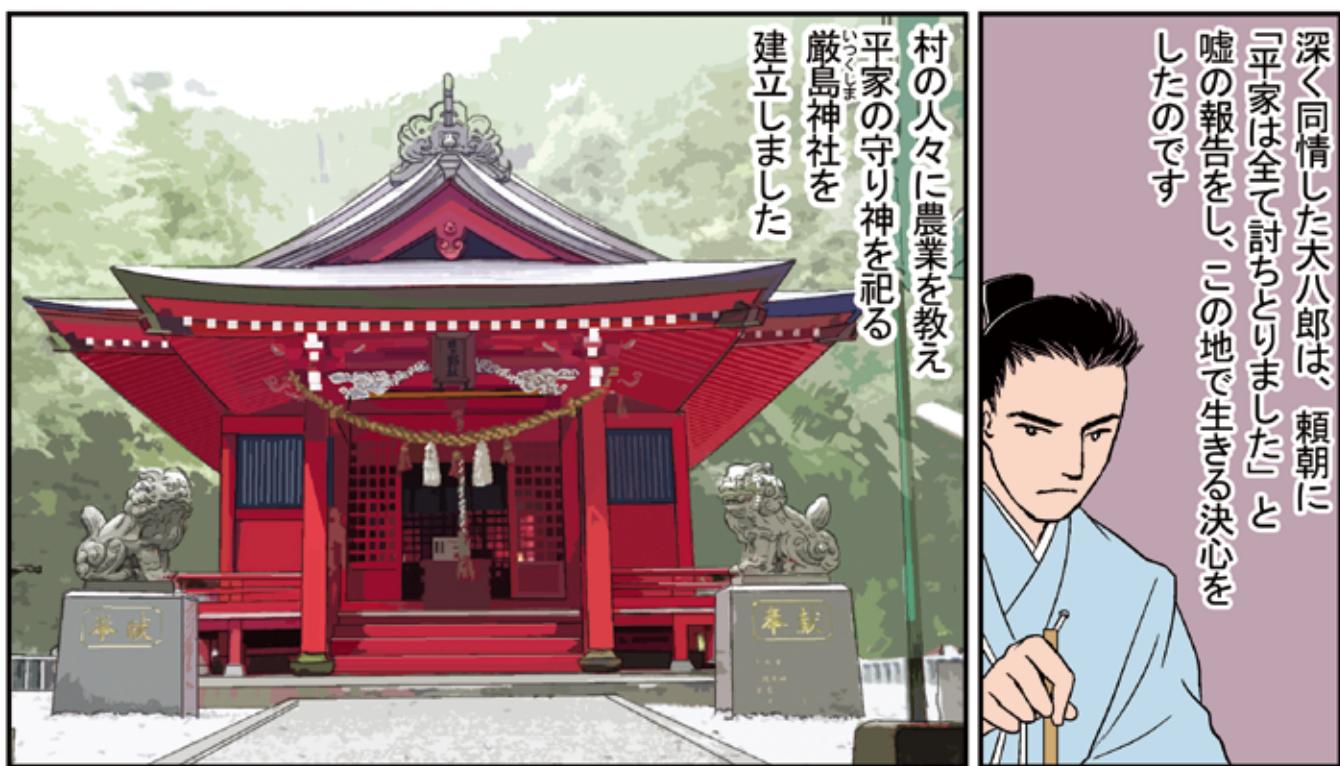
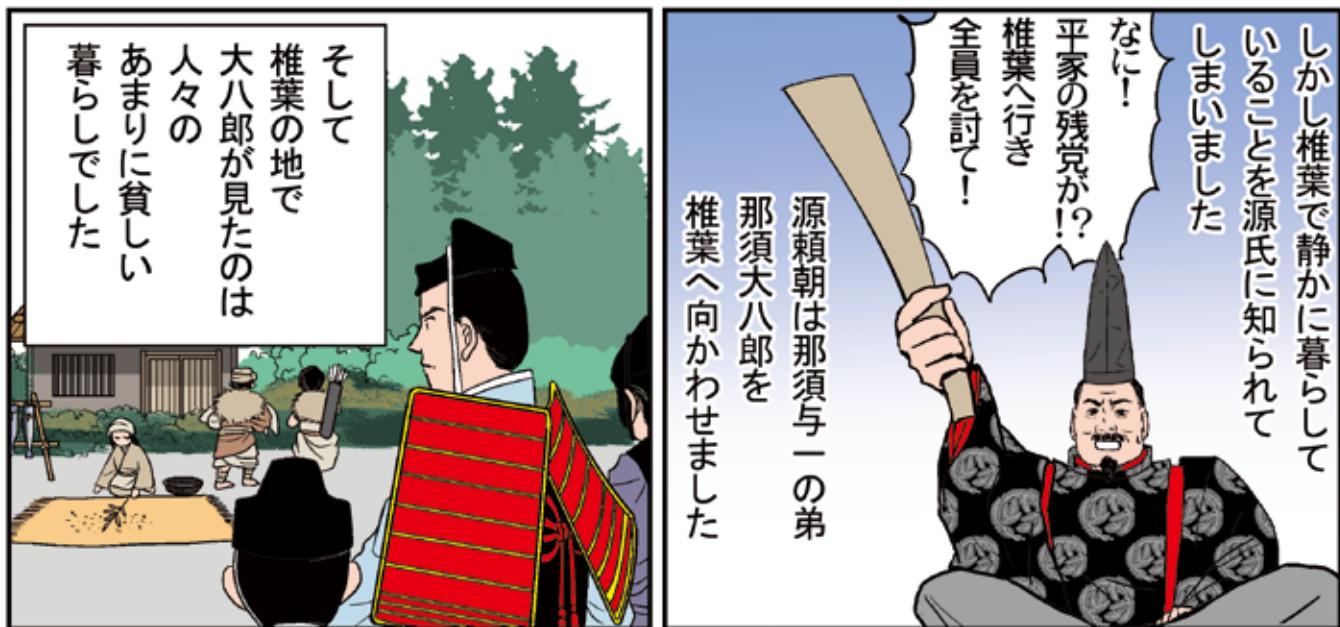
椎葉村に伝わる
平家物語を
紐といてみましょう

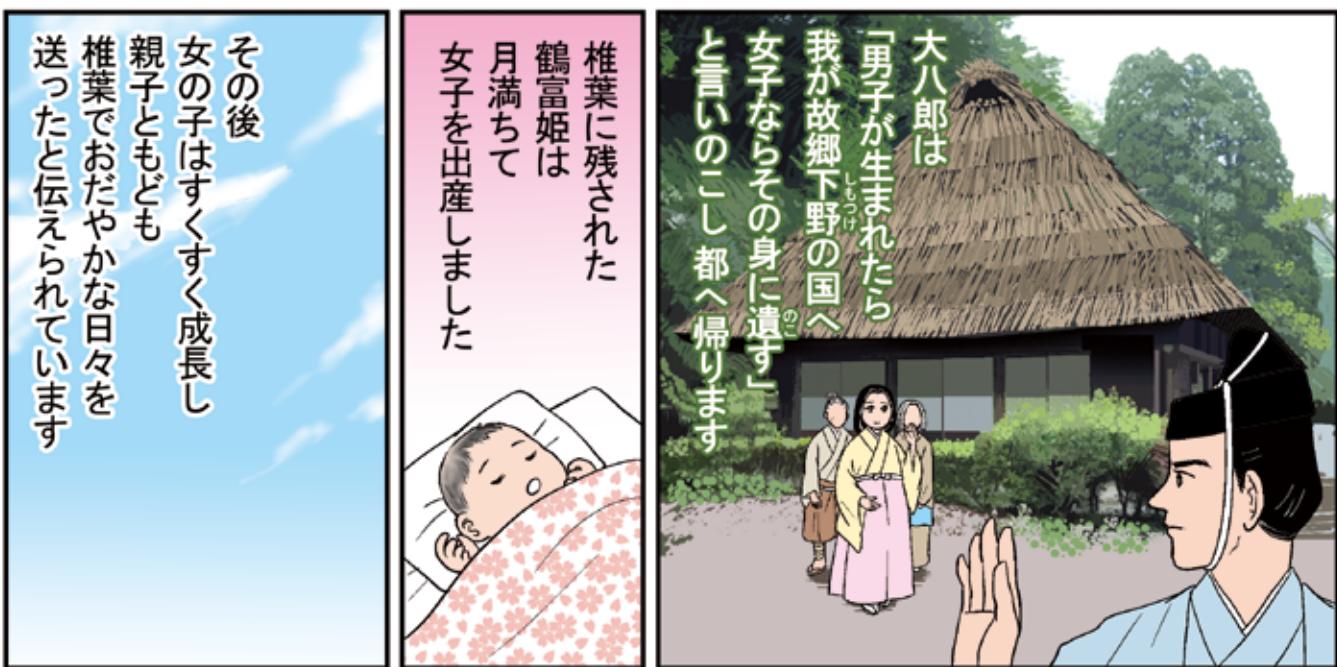
山また山
深い山襞が幾重にも
連なる椎葉村には
鶴富姫と那須太八郎の
悲しい恋の物語が
伝えられています

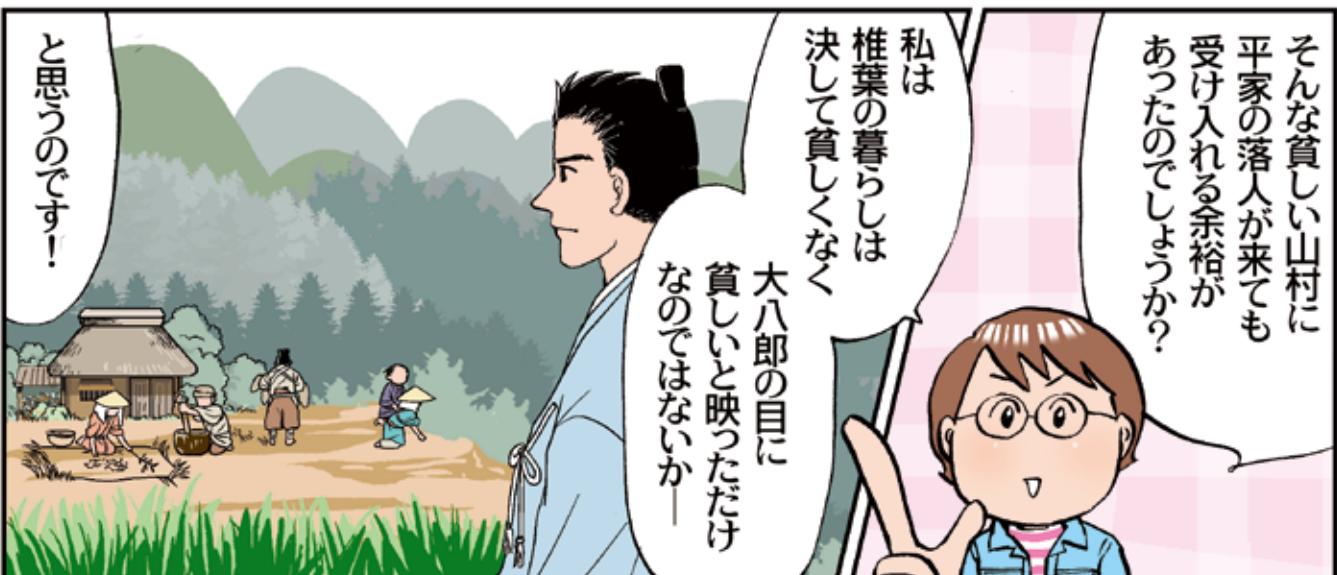


およそ八百年前
1185年
壇ノ浦の合戦で
源氏に敗れた
平家の武士たちは
この椎葉の村へ
逃げてきました









那須大八郎は下野の国（現在の栃木県）に生まれ広い水田を間近に見て育つことでしょう



しかし
狩猟採集の民は
そこにいる動物や植物を
根こそぎ獲ることは
決してしません

一つ一つの山の資源が
枯渇しないよう
今年はこの山から少しいただき、
来年は別の山から、というように
採集場所を移動させながら
食糧を得ます

山の民は
自分たちの生活を守るのに
必要な分を必要なだけ
山からいただく暮らしを
しているのです

「獲りすぎないこと」は
生きる上で大切なルールです



昔は
狩猟民族は動物を殺す
野蛮な民で
農耕民族は植物を育てる
穏やかな民だ——
という考えがありました

しかし
本当にそうでしょうか？



稻作が日本に伝わる前は
狩猟採集生活をしていた
日本人も

稻作により
生活が安定した反面
貧富の差が生まれました



